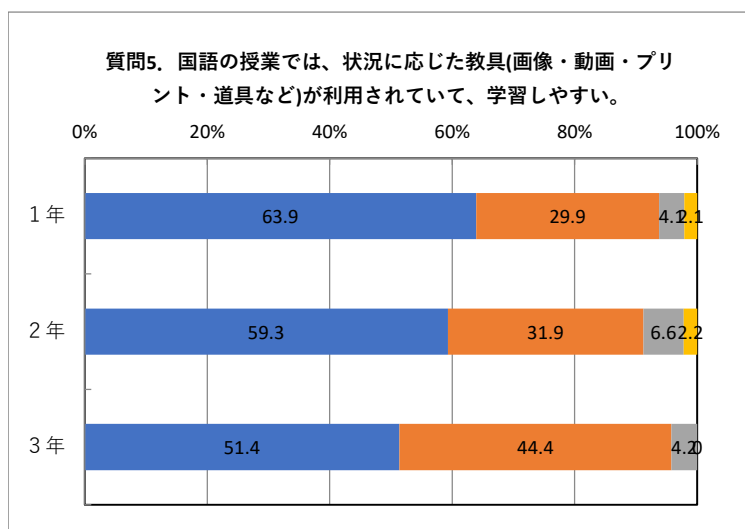
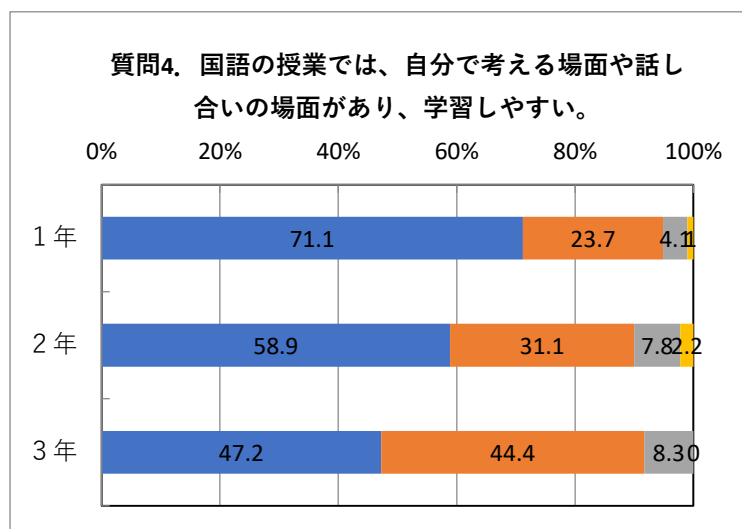
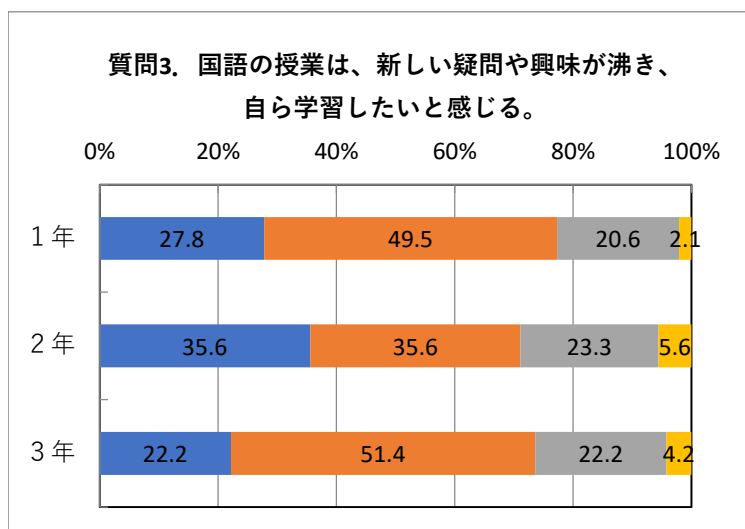
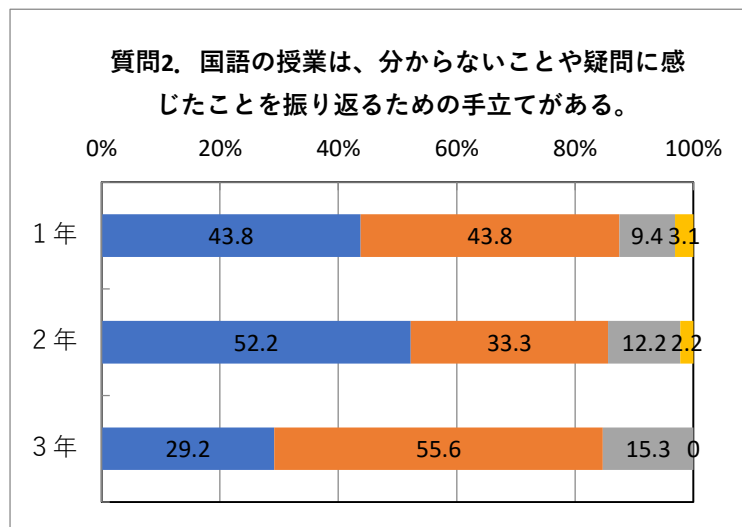
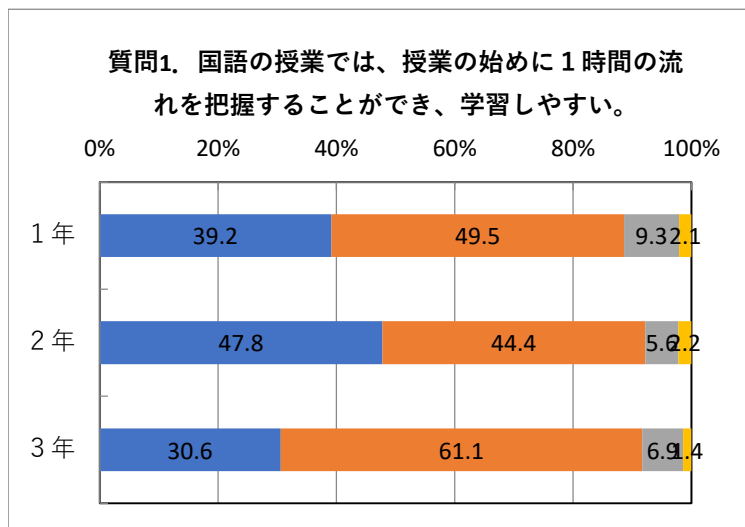


令和3年度 学校評価 授業編【国語】 アンケート集計結果 調布市立第八中学校



【7月】



【分析】

全体として肯定的な回答であった。「質問1」では毎時間の目標を明記していることが効果を発揮している。「質問3」では、教科の特性もあり、新しい興味や疑問は明確にしづらいように感じられる。「質問4」では、「主体的学び合い」を重視してきた成果が感じられ、生徒同士の意見交流によって相互理解につながっている実感がある。さらに「質問5」からは、今年度積極的に取り入れようとしているICT教具への成果を感じられる。今後も生徒の関心・意欲の向上につながるためにも、「話し合い」「ICT機器」を積極的に取り入れていく。

【課題】

[1年]授業での積極的な発言が多く、話し合いも活発である。その力を「質問2」の課題である分からないことの解決に役立てるような授業展開の必要がある。
 [2年]落ち着いた学習態度の中で、本時の授業課題を理解することができていることが「質問1」からわかる。しかし、少し受け身なところがあるので、「質問3」の数値の向上のためにも、自ら学習したいという意識を持たせるように工夫することが課題である。
 [3年]授業での思索の精度が高まり、さらに根拠を踏まえてわかりやすく他者に説明する表現力も伸長している。「質問3」の結果から、自ら学習したいと感じ主体的に取り組む態度が学力を伸ばすことを意識づけたい。「質問4」にあるように、授業ペースに対応できる柔軟性を磨くため、相互確認の機会の設定を増やし、生徒がより総括的な理解の上で、進捗状況を管理できる能力の育成に励む。